

The 56th Congress of the Japanese Society for Dialysis Therapy
第 56 回 (社)日本透析医学会学術集会・総会

> English

Contents

ホーム
会長挨拶
開催概要
プログラム
日程表
参加者へのご案内
座長・発表者へのご案内
演題募集



会期: 2011年6月17日(金)~19日(日)

会場: パシフィコ横浜

会長: 秋澤 忠男 昭和大学医学部内科学講座腎臓内科学部門

変革する透析医学
Revolutionizing Dialysis Therapy

第56回

日本透析医学会学術集会・総会
が、6月17日~19日に横浜市にて
開催されます。

当院からは、野口 幸 臨床工学科
技士長 が学術発表をされますので
ご紹介いたします。



— 抄 録 —

重症下肢虚血(CLI)を発症した維持透析患者に Hybrid 血行再建術が奏功した 1 例
医療法人 康仁会 西の京病院 臨床工学科¹⁾ 同透析センター²⁾ 同血管外科³⁾
同循環器内科⁴⁾

野口 幸¹⁾ 麻野秀人¹⁾ 上西大輔¹⁾ 武井 誠²⁾ 青木昭美²⁾ 吉岡伸夫²⁾ 今井崇裕³⁾ 福井寛人⁴⁾
奥村啓之⁴⁾ 齊藤精久⁴⁾ 高比康臣⁴⁾

【症例】症例は 60 歳女性。2010 年 3 月糖尿病性腎症にて透析導入。2010 年 2 月より左下肢痛が出現。ABI で右足肢 0.64 左足肢 0.55、SPP で右足背 / 足底 62/37mmHg 左足背 / 足底 25/39mmHg であった。下肢血流検査で CLI を疑い下肢動脈造影検査を行った。造影所見で左総腸骨動脈に 90% の狭窄、両浅大腿動脈は完全閉塞、さらに左膝窩動脈に 90% の狭窄を認めた。同年 6 月に左下肢動脈に対し経皮的血管形成術(PTA)を行ったが guide wire が浅大腿動脈より通過せず左総腸骨動脈にステントを留置し終了した。しかしながら、良好な血流を得ることができず Hybrid 血行再建術の適応と考え、同年 11 月に両下肢動脈に対して F・P バイパス術(Femoral - Popliteal artery)を行った。術後、間歇性跛行が消失、ABI 右 0.97 左 0.86、SPP 右 76/92mmHg 左 71/85mmHg と著明に改善した。

【結語】透析患者の CLI に対する治療は難渋することが多く、Hybrid 血行再建術は複雑病変を有する透析患者の治療法として、今後さらなる効果が期待できる可能性がある。